

HDM推進会再開協議会議事録

開催日： 2011年(H23年)7月 22日(金) 10:30～12:00

場所： レストラン・ジョナサン

出席者： 平林、加藤、川村、桐生（作成）

議題：

1. 佐藤市長がごみ処理の広域支援依頼で難航している理由の説明

- 昭島市から支援を断られたケースでは、佐藤市長の選挙ビラに「ごみ処理4年間で20億円のムダ遣い」とあった文言を捉えて、「当市は小金井市にムダ遣いをさせていたと言うのか」と迫られている。嘗て国分寺市から「小金井市の市議さんは非焼却処理はエコに良いと唱えているのに、当市が小金井市のごみをエコに悪い焼却処理してもよいと考えるのか」と迫られて、当時の稲葉前市長が弁明に大変な苦勞をされたのと同じ内容である。いわば古くて新しい解決できていない問題。このためか、佐藤市長の施政方針の文書中から選挙公約にあった「非焼却」HDMシステム導入との文言が抜け、「私が市長選で訴えてきました「生ごみ処理」は有効だろうと思います」とぼかした形で残されている。このため、市議会の中からは「選挙公約のHDM処理の旗は降ろしたのか」との声が上がっている状況にある。6月の議会では、佐藤市長は稲葉前市長の（焼却を基本とする）路線を継続することを表明している。（加藤）
- 「将来的にはHDM処理に切り替えるとして、それまでの過渡期は焼却処理で繋げて欲しい」という内容なので、何も非難される性格のものではないと思う。現在、日本を揺るがす「脱原発」と全く同じ構図ではないか。理論武装が不完全なために追い詰められたのではないか。（桐生）
- 「HDMの導入は他の自治体に焼却をお願いすることによるご迷惑を少しでも減らす」という小金井市の配慮を示すものとして、ポジティブに理解してもらえよう説明が必要でなかろうか。（川村）

2. 広域支援が行き詰まった場合、民間事業者にごみ焼却を頼めるか（加藤）

- 可能である。現在でも小金井市の事業用可燃ごみの大半は寄居市のオリックスに依頼されているが、ここは小金井市のごみ全量でも受け入れ可能と言っている。
- 品川区のシンシアという事業者は4～5万トを受け入れ可能とし、費用4万円/トを呈示している。
- 日本経済の低迷に伴い、総合的にごみ発生量も減少しつつあり、需要に対して相当の能力過剰が存在する。一方で焼却炉の負荷を軽くして寿命を伸ばす動きもあり、必ずしも自治体が「焼却炉で燃やすごみを欲しがっている売り手市場」ではない。

3. 行政との折衝窓口の交代の提案

- 2010/12/14の「行政とHDM推進会の打合せ」で、①当方は大橋、市原、杉本の3名をコアメンバーとする。②行政との窓口は大橋とする。」の取り決めを行い、以後、その体制で運営してきた。当方の会合は2011/3/14の第15回HDM推進会を最後に、予定された3/25のジャノメ跡地での立会の後、桜並集会所での会合は一方的に中止となり、4ヶ月間に亘って説明なく休会となっている。議員や協力をお願いしている地元関係者からのフォローにも答えることができない状態が続いている。大橋氏のご多忙が原因の一つであるようだから、この問題に意欲と見識を有される平林氏に会の責任者交代をお願いしてはどうか。（加藤）
- 大橋氏は佐藤市長の後援会の責任者に就かれたため、行政との折衝窓口となることは慎んだ方が良い政治的立場におられると考える。この問題については8/8の次回HDM推進会の議題に提起したい。（桐生）
- 平林氏が会の責任者になられる場合は、恐縮ながら①HDM以外の新しいごみ処理方式を次々提案されること、②実行主体をPFI方式とすること、についての議論は控えめにお願いできないか。（桐生）

以上